

事例 5

第 3 学年の実践

1. 主題名 公平な態度で C (12) 公正、公平、社会正義
2. ねらい 不公平な態度が周囲に与える影響に対する理解を深め、誰にでも公平に接しようとする判断力を育てる。
3. 教材名 「なおとからのしつもん」(光村図書「きみが いちばん ひかるとき」3)
4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

社会正義を実現させるうえで、公正、公平に接することは大切である。しかし、人は、自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに対し、偏った見方をしてしまいがちである。また、自分よりも弱い存在に対し優越感を抱きたいために、偏った接し方をしてしまうこともある。これは差別やいじめにつながる。

人は所属する集団の中でよりよく生活し、それぞれのよさや能力を伸ばし合う必要がある。それを実現するためにも、誰にでも公平に接しようとする姿勢を育むことは重要である。相手によって態度を変えることなく、誰に対しても公平に接するためには、どんな心が必要か考えさせたい。

(2) 児童の実態について

中学年になると、分け隔てなく公平に接することの大切さを理解できるようになるが、それは知識としての理解であることが多い。日常の生活に目を向けると、自分の好きな相手には仲良く接しようとするが、苦手な相手や自分が不利益を被った相手に対しては、避けたり嫌な態度をとったりすることがある。

このような時期だからこそ、誰にでも公平に接することの意義について考えさせたい。不公平な態度が周りに与える影響についても意識させ、誰に対しても分け隔てをせずに公平に接することは、よりよい人間関係を築くことにつながっているということにも気付かせたい。

(3) 教材について

「ぼく」は、なおとの態度が気になっている。なおとは仲良しの友達が隣になったときは喜ぶが、そうでない友達が隣になったときには露骨に不機嫌になる。優しくしてくれる友達が「仲間に入れて」と言ったときは「いいよ」と迎え入れるが、そうでない友達のときには「だめだよ」と突き放す。「ぼく」はそんななおとに「人によって態度を変えるのはだめだ」と注意するが、反対になおとから「なぜ、態度を変えてはいけないのか」と聞き返されてしまう。なおとの質問にどのように答えたらいいのか「ぼく」は一緒に考えてほしいと訴える。

場面ごとに、絵と吹き出しで状況が説明されている。読むことが苦手な児童にも考えやすい教材である。

5. 教材分析

| 話のすじ | 心の動き | 気付かせたいこと |
|--|---|---|
| 「ぼく」は最近なおとの態度が気になっている。 | | |
| ①席替えのとき 仲良しの子がとなりになると喜び、あまり話したことのない子がとなりになると嫌な顔をすする「なおと」。 | <なおと> ・なかよしのじゅんやならいいけど、話したことない子はつまらないからいやだな。 | ・なおとの人によって態度を変えることが周りの人にどんな思いをさせているのかということ。 |

| | | |
|---|--|--|
| <p>②休み時間のこと いつも優しくしてくれるほなみは仲間に入れて、ボールを当てられたことのあるゆかこは仲間に入れたい「なおと」。</p> | <p><なおと> ・ほなみはいつも優しくしてくれるから入れてあげたい。 ・ゆかこはこの前ぼくに当ててきたから、入れたくない。</p> | <p>・なおとの人によって態度を変えることが周りの人にどんな思いをさせているのかということ。</p> |
| <p>そんな「なおと」に人によって態度を変えるなんてだめだと注意する「ぼく」。</p> | <p><ぼく> ・なおとの態度はおかしいと思う。</p> | <p>・人によって態度を変えることが周りの人に影響を及ぼしているということ。</p> |
| <p>「なんで人によって態度を変えることがだめなの？」となおとに質問されて困ってしまう「ぼく」。</p> | <p><ぼく> ・なぜ、人によって態度を変えることはよくないのか、どうやってなおとに伝えたらいいのだろう。</p> | |

6. 主体的・対話的で深い学びにせまるための工夫

(1) 問題意識をもたせるために

①教材の特徴を生かした問題意識づくり

本時の教材は登場人物の困り感から始まる。友達のなおとが人によって態度を変えて、周りの人へ悪影響を与えている。そして注意をするも、なおとから「どうして人によって態度を変えたらいけないのか。」という疑問を投げかけられ、答えに困っている場面で終わる教材である。この疑問から児童は自分だったらどのようになおとに答えるのかを自然と考えやすい教材のため、本時はなおとの投げかけをそのまま課題として設定した。

②「自分だったら…」の役割演技

教材の最後の場面でのなおとからの「どうして人によって態度を変えたらいけないのか？」という質問に対して自分だったらどのように答えるのか即興で演じさせることで人によって態度を変えてはいけない理由を、セリフを通して発表させる。役割演技を通して、人によって態度を変えることがどのような影響を周りに与え、また自分自身にどのような影響があるのか考えさせたい。

(2) 人権週間に合わせて授業を行う

11月は川崎市全体で「人権週間」が始まる。その始まりに合わせて、本時を行うことで児童のいじめや人権への関心が深まり、日常でも周りの人と関わる時の態度や接し方に気をつけるような意識付けにつながる。道徳科の授業を行うことで、人権週間やいじめ防止について考える際にも、自分だったらどうするかという実践意欲を高められるようにした。

7. 本時の学習

(1) 本時のねらい

相手によって態度を変えるなおとの姿を通して、公平に接することの大切さについて考え、不公平な態度が周囲に与える影響に対する理解を深め、誰にでも公平に接しようとする判断力を育てる。

(2) 本時の評価の視点

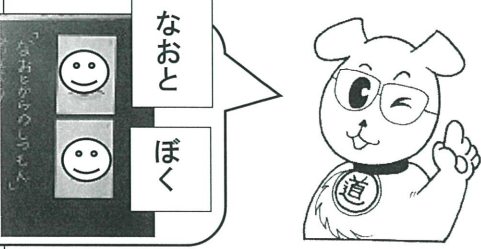


<多面的・多角的な見方・考え方>

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。

<自己を見つめる>

- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考え方を見直している。

(3) 展開

| <p>学習活動 (○基本発問◎中心発問・実際の児童の反応)</p> | <p>・支援と留意点 *発問の意図 ☆評価の視点</p> |
|---|--|
| <p>1. 「なおと」の態度や言動を簡単に紹介する。 ○この話に出てくる「なおと」を紹介します。 ・なおと、嫌な子だな。 ・こういう子いるよ。</p> <div data-bbox="193 521 778 745" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>登場人物の顔を掲示する。 また、なおとがどんな男の子か導入で簡単に紹介することで想像しながら読むことができた。</p> </div>  | <p>*教材に入る前に登場人物の「なおと」の態度や言動を紹介し、「なおと」がどんな子が想像させる。 ・「公平」という言葉を確認しておく。</p> |
| <p>2. 教材「なおとからのしつもん」を読み、話し合う。</p> <div data-bbox="309 880 1265 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>どうして人によって態度を変えたらいけないのだろう。</p> </div> | <p>・児童の意見を聞きながら、教材の内容の確認をする。</p> |
| <p>◎どうして人によって態度を変えてはいけないのだろう。</p> |  |
| <div data-bbox="150 1167 1251 1451" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>どうして人によって態度を変えたらいけないのか答えた児童に問い返すことで、さらに考えの根拠を聞くようにした。 (例) T: どうして人によって態度を変えたらいけないの? C: そんなことをしたら、友達がいなくなってしまうよ。 T: 仲がよい友達だけいればいいじゃないか。 C: 仲がよい子だってそんななおとさんのことを見ていたら、きっと嫌いになるよ。</p> </div> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに嫌われてしまうよ。 ・みんなとなかよくするためだよ。 ・自分がされたらいやでしょ。 ・みんなが公平に接するようになったらきっと楽しくなるよ。 ・人を傷つけたら、自分が傷つくことになるよ。 ・家族だって傷つくことになる。 <p>○誰にでも同じように接するために大切なことは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに優しく接することが一番だよ。 ・素直に接すること | <p>*誰にでも公平に接することは大切であることは理解しているがそれがなぜなのか考えさせることで知識としての理解ではなく、多面的、多角的な理解につなげる。</p> <p>・自分だったらなおとにどのように答えるのか、即興で役割演技をさせる。児童が「ぼく役」、教師が「なおと役」になる。</p> <p>☆人によって態度を変えてはいけない根拠を様々な視点から考えようとしている。</p> |

- ・どんな人でも受け入れてあげることが大切だと思う。
- ・よいことはよい、悪いことは悪いと伝えることも大切だと思う。



児童の中に「みんな仲良くしようは公平だとは思わない。」という意見があったので、この発言に対してどう考えるか学級全体に返して考えさせた。すると、

- ・苦手な人や自分に意地悪をするような人に対しても避けたりしたら、なおと同じだよ。
- ・相手がどんな人でもまず受け入れることが大切だと思うよ。

などの意見が出た。

3. 自分の生活を振り返る。

○今日の学習を通して、学んだことを考えましょう。

自分と合わない人、苦手な人とでも仲良くすべきだなどと観念的なものではなく、そういった人達も含めて、どんな心をもって過ごしていくべきなのかを説明してから振り返りを書かせた。

【ワークシートより】

- ・自分はこれまでに女子や男子で態度を変えてしまっていました。また、嫌な人にも冷たい態度をとってしまうことがありました。でも、今日の授業で悪いところばかりを見ずによいところも見つけて、接していきたいなと思いました。

- * 公平に接することができる人がどんなことを大切にして過ごしているかを考えることで公平につながる考えは1つではなく様々な視点から考えることができることに気付かせる。
- ・誰に対しても公平に接する人はどんなことを大切にしてしているのか問うことでさらに深める。



☆なおとからの質問について考えることで現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考え方を見直している。

4. 自分たちが考えたいじめ防止のための標語を確認する。

○明日から「人権週間」が始まります。改めて自分たちが作った標語を振り返りましょう。

- * 人権週間の紹介と6月につくったいじめ防止の標語を振り返ることで人権週間へ問題意識を継続していく。

8. 実際の板書

